華麗なる図書館利用者のための

クールリブラー講座

Cool Librar

カジのひねもすハイスクール純情派

文／カジ

権藤－権藤－雨－権藤

1961年の流行語。連日マウンドに立ち続けるかつての中日ドラゴンズ投手、権藤博氏の使われ過ぎ具合を皮肉った言葉である。この言葉を使わせてもらえば、カジ高はまさに「補習－補習－雨－補習」。いや、補習は雨でも行われるのでむしろ「補習－補習－補習－補習」な。カジの中では補習なんていうものは、希望する者が受ければいいと思っていたので、連日強制的に参加を強いられるカジ高の補習は本当にアレな感じだった。それでもほとんどの生徒はちゃんと補習に参加しており、この頃から自分が社会的不適合人間だとはっきり自覚するようになったカジなのであった。

恐怖の補習 サバイバル日本史①

【前回までのあらすじ】

前回まで、20年ぶりぐらいに開催されたリアルカジの中学校同窓会について触れてきたのだが、結局憧れの千絵ちゃんとは会えずに終わるというしょんぼりな結果となった。なので、そこはこれ以上掘り下げないことにした。

ということで、今回からはカジ高校に話を戻すことにする。タイトルにあるようにサバイバル日本史の話をしようと思う。

中途半端な進学校は、生徒をとにかく勉強漬けにする。カジの通っていたカジ高は、まさにこの言葉通りの高校だった。朝から補習。授業後も補習。休みの日も補習。昼休憩も補習というように、ちょっとした隙を見つけては補習を入れてくる姑息な学校だったのな。ただでさえ勉強嫌いなカジは、この補習攻撃に早くもゲンナリ。コロ助で言えば「ゲンナリナリ」の状態であった。ただ、こちらも黙って補習に参加するような良い子ちゃんでは当然ない。やれ歯医者だの、やれ歯医者だのと言い訳を繰り返し、多い時には週5で歯医者に通うという、デンタルボーイを演じていたのだった。

とある土曜日の午後。本来であれば半ドン（午前中で授業が終了する様）で帰れるはずであったのに、あろうことかここにも補習を入れてきやがった。補習内容は林先生の日本史。そしてそれは、生徒にとって恐怖の時間であった。「デモニッシュ林」の異名を持つ林先生は、冷酷無慈悲。できない生徒にはもちろん厳しいが、できる生徒にも同様に厳しいという、ある意味厳しさの平等性を持った厳格な先生で… あれ、これ褒めてるのか。まぁとにかく全生徒に対しゴリゴリの強い言葉で威圧し、生徒を震え上がらせる存在だったのな。中でも普段の生活態度が悪いカジに対しては、もはや怒るとか怒鳴るとかの段階は通り越し、ほぼほぼ無視の領域であった。

さて、その日ももちろん帰る気満々だったデンタルボーイカジ。担任のデモニッシュに勝負を挑む。

カ「歯医者があるので帰ります…」

林「どの歯が悪いんだ？見せてみろ！」

カ「右奥のこの歯がボロボロで…」

林「見た感じ大丈夫だ。補習出ろ！」

こんな問答の末、結局補習に出ることになったカジ。この後、まさかの展開に。

ご意見・ご感想はこちらへ
coollibrar@hotmail.co.jp